

入試課では「二次試験の廃止で受験生の負担が減ることや、外国語学部内で併願が可能となることで受験生が増え、結果として優秀

カンボジア アンコール・ワット

博物館建設起工式挙行

本学発掘の廃仏274体を展示

カンボジアの世界遺産アンコール・ワット近くで本学調査団が二〇〇一年に大量の仏像などを発掘した。それらを展示公開する博物館建設起工式が三月二十八日に現地で行われた。

本学調査団は、アンコール・ワットから北東約六キロにあるバンテアイ・クデイ寺院で二百七十四体の廃

な学生の獲得につながるだろう」と話している。なお、新課程入試では大

の必修が決定しているが、本学の一般入試二次試験では施設などの条件面での都合により実施が見送られた。

仏を発掘し、現地のアジア人材養成研究センターに収蔵中である。二〇〇二年に大手スーパーイオン株式会社

の深い宗教性に心を打たれたことをきっかけとして、これらの仏像を世界の人達に見てもらうため、博物館建設費約一億円の提供を本学に提案した。



国内外のマスコミとの記者会見

がカンボジア政府から無償提供された。場所は遺跡保護

該地域の入口ゲート側という地の利を得ており、そこに約千四百立方メートルの博物館を建設する。

既に青写真も出来上がり、完成は二〇〇五年十二月を予定している。

起工式には本学から粕谷友介総務担当理事、石澤良昭外国語学部教授などが出席した。式の後には国内外の

新聞・TVなどのマスコミ十社との記者会見があり、アプサラ（カンボジア政府アンコール地域遺跡整備機構）から副総裁、シエムリアップ州副知事、日本大使館井上公使、岡田名誉会長も出席した。

博物館はアンコール地域では初めてのものであり、アンコール文明の深い歴史背景を世界へ伝える、新しい文化の殿堂となる。日本とカンボジアの文化の架け橋となる博物館建設の意義は大きい。

カンボジア便り

「シハヌーク・イオン博物館」建設へ



国王と談笑する石澤教授

「国際交流基金賞受賞」

長年にわたり、カンボジアのアンコール遺跡群の発掘調査、保存修復に取り組んでいる石澤良昭教授（1962外仏）が、平成15年度「国際交流基金賞」を受賞した。この賞は独立行政法人国際交流基金が毎年、学術、芸術、また文化活動を通して国際相互理解、国際友好親善を促進して国際文化に顕著な功績があり、引き続き

影響力が大きいと認められた個人および団体に贈られる栄誉あるもの。石澤教授のますますのご活躍を願うものである。

「シハヌーク・イオン博物館」建設進む

最近の2度の発掘調査で274体仏像を発掘したことはすでにご存じの通りだが、これらの宝物は非公開で保管されている。そういえば、アンコール遺跡周辺には観光客が訪れるような資料館や博物館がない。これまで何度か一般公開する施設の建設計画が持ち上がったそうだが、資金難などから実現しなかった。一昨年、大手スーパー、イオンの関係者が現地を訪れたことがきっかけで、イオングループの社会貢献活動組織からの資金提供があり、現在「シハヌーク・イオン博物館」が2005年12月の完成を目指して建設中である。これまでの調査活動による多くの



国王を囲んで

出土品は、日本とカンボジアの文化の懸け橋となる新しい博物館で一般公開される日を待っている。

「機材寄贈で機動力増加」

昨年、遺跡修復の現場に1台のクレーン式重機が加わった。石澤教授の出身地帯広島でカメラ店を営む浅野祐一氏（1967経商）が、一昨年のワゴン車寄贈に次ぐ2度目の大きな支援である。そして日々、現地で調査団の足となり力となって活躍している。（諏訪）



浅野祐一氏